



図-8 問題雑草一発処理のマーク

なお、一部の市販薬剤にはロゴマークを使用していないものもある。

引用文献

川島長治ら 1981. 多年生雑草コウキヤガラの防除法確立に関する基礎的研究 第2報 塊茎の萌芽及び出芽について. 雑草研究 26, 123-127.

小山豊ら 1986a. 水田多年生雑草オモダカの生態とその防除 第1報 生態的特性. 千葉農試研報 27, 169-183.

小山豊ら 1986b. 水田多年生雑草オモダカの生態とその防除 第2報 防除法と雑草害. 千葉農試研報 27, 185-195.

小山豊ら 1988. 多年生雑草コウキヤガラの生態 第1報 塊茎からの出芽特性. 雑草

研究 33, 105-113.

山岸淳・武市義雄 1978. 水田多年生雑草の防除に関する研究 第VIII報 クログワイの生理生態的特性について. 千葉農試研報 19, 191 - 217

田畑の草種

都草・都花・黄金花・淀君草・烏帽子草 (ミヤコグサ)

マメ科ミヤコグサ属の多年草。全国の道端，線路際，農道・畦などで普通にみられる。高さ10cmから50cmほど。茎は束生し，直立するか地上を這う。春から秋まで花をつけるが，春の花が一番よく目立つ。黄色から鮮黄色の烏帽子に似たこの蝶形花は，タンポポなどのキク科の黄色の頭状花に比べるとずいぶん可愛い。

日本在来とも史前帰化植物とも。名前の「都草」は，牧野富太郎は，「昔京都の大仏の前，耳塚付近に多かった」からだといひ，また一説には都，京とも奈良ともいうが，その都の近くで咲き誇っていたから名付けられたともいう。

牧野の言う京都の大仏の前の耳塚は，豊臣秀吉が朝鮮戦役の際に持ち帰った敵方の耳や鼻を祭った塚だといふ。その塚の周りに本草があったからだとする，秀吉の頃までこの草が目立たなかったということになる。しかし本種が在来とも史前帰化植物ともいうことからすると，やはりかつての都に多く，目立っ

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

ていたからと考えたい。

こんなことを想像してみた。

時は7世紀半ば，飛鳥時代。天皇の住まう宮は，難波，大津，飛鳥とあちこち移っていた。額田王も宮の移ろいとともに住まいを移していた。ある時，きらびやかな唐衣をまとった額田王が宮の外に広がる田に出てみたところ，畦に咲く鮮黄色のこの花に出会った。「ああ，これは飛鳥の都に咲いていた『都草』。ここも先の都のように麗しくなるに違いない」と思ったかどうか。額田王も天武天皇も，それこそ柿本人麻呂や大伴家持など，多くの万葉人の目につかないはずはないと思うのだが，万葉集に都草を詠った歌はない。

だからという訳ではないが，万葉人が転々とする都を思っ

て詠むとするとこんな歌だろうかと思つてみた。
都^{みやこへ}辺の 野に咲きすさぶ 濃き花の
草の名ほどに 候^{さぶら}ひ賜ふ